

## 第 17 回 これからの学術情報システム構築検討委員会議事次第

日 時：平成 29 年 8 月 4 日（金）13:30-16:30

場 所：国立情報学研究所 20 階実習室 1

出席者：配布資料参照

### 議事

1. 前回議事要旨確認 (資料 1)
2. NII オープンフォーラムの開催報告（報告） (資料 2-1～2-2)
3. VIAF への正式参加（報告） (資料 3)
4. 電子リソースデータ共有作業部会活動報告（報告） (資料 4)
5. NACSIS-CAT 検討作業部会活動報告（報告） (資料 5)
6. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会（仮）の企画検討（審議） (資料 6-1～6-2-3)
7. 平成 29 年度活動について（審議） (資料 7-1～7-2)
8. その他

### 配付資料

#### 委員名簿

1. 第 16 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. 平成 29 年度国立情報学研究所オープンフォーラム開催報告
- 2-2. NII オープンフォーラム 2017 アンケート
3. VIAF への正式参加について（報告）
4. 電子リソースデータ共有作業部会（平成 29 年度活動報告）
5. NACSIS-CAT 検討作業部会（平成 29 年度活動報告）
- 6-1. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会（仮）の企画案
- 6-2-1. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会について（通知）  
（国公立協力委員会委員長宛）
- 6-2-2. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会について（通知）  
（目録所在情報サービス参加館宛）
- 6-2-3. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会チラシ案
- 7-1. 平成 29 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画
- 7-2. 第 15 回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨（抜粋）

### 参考資料

1. これからの学術情報システム構築検討委員会規程
2. 平成 29 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告
3. 電子リソースデータ共有作業部会（平成 29 年度活動計画）
4. NACSIS-CAT 検討作業部会（平成 29 年度活動計画）
5. 意見交換会用 Web サイト
6. 意見交換会申込フォーム（札幌会場版）
7. 意見交換会ご意見・ご質問事前受付フォーム

平成 29 年 7 月 10 日現在

平成 29 年度これからの学術情報システム構築検討委員会委員

氏 名	所 属 機 関 ・ 職 名	備考
小山 憲司	中央大学文学部教授	委員長
相原 雪乃	北海道大学附属図書館管理課長	
佐藤 初美	東北大学附属図書館情報管理課長	
米澤 誠	京都大学附属図書館事務部長	
粟谷 禎子	公立はこだて未来大学情報ライブラリー	
原 修	立教大学図書館利用支援課課長	
近藤 茂生	立命館大学学術情報部次長	
呑海 沙織	筑波大学図書館情報メディア系教授	
佐藤 義則	東北学院大学文学部教授	
大向 一輝	国立情報学研究所コンテンツ科学系准教授	
小野 亘	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長	
飯野 勝則	佛教大学図書館専門員 電子リソースデータ共有作業部会 主査	陪席
三角 太郎	筑波大学学術情報部アカデミックサポート課長 NACSIS-CAT 検討作業部会 主査	陪席
江川 和子	国立情報学研究所学術基盤推進部次長	陪席
片岡 真	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長	事務局
阪口 幸治	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長	事務局
古橋 英枝	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員	事務局

第16回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨

日時：平成29年1月30日（月）14：00～17：00

場所：学術総合センター 20階 実習室1・2

出席者：

（委員）

佐藤 義則 東北学院大学 文学部 教授  
熊渕 智行 東京大学附属図書館 情報管理課長  
甲斐 重武 京都大学附属図書館 事務部長  
渡邊 俊彦 鹿児島大学 学術情報部長  
山田 奈々 青森県立保健大学 図書課 主査  
原 修 立教大学図書館 利用支援課 課長  
近藤 茂生 立命館大学図書館 学術情報部 次長  
呑海 沙織 筑波大学 図書館情報メディア系 教授  
小山 憲司 中央大学 文学部 教授  
大向 一輝 国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授  
細川 聖二 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長  
吉田 幸苗 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（陪席）

小野 亘 東京学芸大学 教育研究支援部 学術情報課長  
佐藤 初美 筑波大学 学術情報部 アカデミックサポート課長  
香川 朋子 お茶の水女子大学図書・情報課係員（情報基盤担当）  
上野 友稔 電気通信大学 学術情報課 専門職員（学術情報サービス担当）  
酒井 清彦 国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長

（事務局）

上村 順一 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
学術コンテンツ整備チーム係長（CiNii/新CAT担当）

阪口 幸治 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
学術コンテンツ整備チーム係長 (CAT/ILL 担当)

古橋 英枝 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
学術コンテンツ整備チーム係員 (CAT/ILL 担当)

#### <配付資料>

##### 委員名簿

1. 第 15 回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨
- 2-1. 第 18 回図書館総合展 (フォーラム会場質問票)
- 2-2. 第 18 回図書館総合展 (フォーラムアンケート結果)
- 3-1-1. 電子リソースデータ共有作業部会 (平成 28 年度活動報告)
- 3-1-2. 電子リソース管理システムの利用可能性の検証について  
(平成 28 年度最終報告)
- 3-1-3. Orbis Cascade Alliance 視察報告
- 3-2. 電子リソースデータ共有作業部会 (平成 29 年度活動計画) (案)
- 4-1-1. NACSIS-CAT 検討作業部会 (平成 28 年度活動報告)
- 4-1-2. NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について (NACSIS-CAT 詳細案)
- 4-2. NACSIS-CAT 検討作業部会 (平成 29 年度活動計画) (案)
- 5-1. 平成 28 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告
- 5-2. 平成 29 年度これからの学術情報システム構築検討委員会活動計画 (案)
- 5-3. 平成 29 年度これからの学術情報システム構築検討委員会委員 (案)

##### 参考資料

1. 電子リソース管理業務の効率化に向けたシステム検証について (協力依頼)
2. 電子リソース管理システムの利用可能性の検証について (平成 28 年度中間報告)
3. Library Technology Reports. 2016, 52(6) Chapter6 (ERDB-JP 紹介箇所抜粋)

#### 4. 議事:

(1) 前回 (第 15 回) 委員会の議事要旨確認

メール審議を経て 11/16 付で確定したため、委員会内での確認は割愛した。

(2) 第 18 回図書館総合展開催報告 (報告)

佐藤委員長より、資料 2-1 及び 2-2 のとおり、図書館総合展の開催結果が共有された。

(3) 電子リソースデータ共有作業部会の平成 28 年度活動報告と平成 29 年度活動計画について (審議)

小野電子リソースデータ共有作業部会主査から資料 3-1-1、3-1-2、3-2 に基づいて、今年度の活動報告と来年度の活動計画について説明があった。続いて、上野・香川電子リソースデータ共有作業部会委員より、Orbis Cascade Alliance における Alma/Primo の共同利用及びデータ共有状況に関する視察について、資料 3-1-3 に基づいて報告があった。

審議の結果、来年度の活動計画が承認された。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

#### [資料 3-1-2 について]

- 子機関（各会員館）が親機関（コンソーシアム事務局等）から共有したデータを変更できなかったと記載されているが、親が 360RMC を契約し、それとは別に子が 360RM を契約した場合は可能なのではないか。
  - 親システムからデータを csv 等でエクスポートして子システムにインポートすれば可能だが、共有機能を使用して共有したデータを子に変更することはできない。
  - Alma ではその点が解消されるのか。
  - Alma には全世界の Alma ユーザーが共有する Community Zone とコンソーシアム内で共有する Network Zone と機関レベルの Institution Zone の 3 層があり、各機関は Network Zone のデータを「コピー」または「リンク」が可能である。「リンク」の場合には機関側で変更できないが「コピー」であれば変更可能である。検証で実装状況を確認する。
  - 360RMC で実現しなかった機能が Alma に実装されている可能性があるのであれば、検証内容として明記した方が優位性を示す材料になるのではないか。

#### [資料 3-2 について]

- 図の「書誌」とはどういう意味で使用しているのか。
  - メタデータという意味で記載している。
  - この図では「タイトルリスト」との違いが分かりづらい。
  - 「タイトルリスト」は簡易な情報しか含まれないが、「書誌」は検索用のメタデータ、という意味で記載した。

#### [その他]

- 作業部会の検証報告書の背景には、図書館サービスのプラットフォームについて、各機関が使用している図書館システムも含めて見直す時期にきている、という前提があると理解している。その中のパーツとして ERDB-JP や 360RMC や Alma があるが、そのような文脈が抜け落ちて、断片的な情報が各機関に届いているとの印象を持っている。委員会として、両作業部会の検討結果の位置づけが明確になるような前提文書の作成が必要なのではないか。

- 全体の方向性を示す文書と資料 3-1-3 の視察報告にあるような具体的な導入事例の両方がリンクすると各機関の理解もより一層進むのではないか。
- 検証結果が、商用 ERM システムと同等のシステムを独自構築するのがよいのか購入するのがよいのか、購入する場合には JUSTICE というまとまりで購入するのかよりミニマムなまとまりで購入するのか等々を検討する材料になればよいのではないか。
  - 来年度は検証後の方向性について明示した方がよいのではないか。
- 仮に共同購入を前提にすると、各機関における予算の課題もある。
- 日本で導入する、という仮定ではどういった作業が必要なのか、どの程度効率化するのか、といったことが検証結果として示されることを期待している。
- 現時点の作業部会の検証スコープは電子リソースの管理だが、検証を通じて、紙媒体も含めたワークフローの効率化を考える必要性を感じている。

#### (4) NACSIS-CAT/ILL の再構築の詳細案について（審議）

佐藤 NACSIS-CAT 検討作業部会主査より、資料 4-1-1～4-2 に基づいて今年度の活動報告と来年度の活動計画及び「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）」について説明があった。

審議の結果、「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）」については第 13 回推進会議で報告し、その後委員会 Web サイトに掲載するとともに、国公私立大学図書館協会・協議会のメーリングリストでも広報することとなった。来年度活動計画についても承認され、説明会の具体的な実施方法について、作業部会で検討することとなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

#### [資料 4-1-2 について]

- 用語の変更による混乱について検討はあったのか。
  - 「ファイル」や「レコード」について、一般的な意味と NACSIS-CAT 内の用法にずれが生じており、それを修正するための変更である。それぞれ 1 対 1 の対応での用語変更であり、それほど大きな混乱になるとは考えていない。
- 参照 MARC は今後も引続き必要なのか。
  - 書誌作成単位が異なる等の理由によりシステム登録できない外部機関作成データが存在する限り、流用登録が残り、参照 MARC の概念も残る。
- 「流用」という文言が残ることに違和感がある。従来の用語が残ると新旧で何が変わったのか分かりづらい。「コピー」程度に留めるのを検討してほしい。
  - 検討して修正する。
- 自動リンク機能は書誌作成時に必要なのか。リンクしていない状態でも、検索時に各データベースから抽出して表示させる、という方法はとれないのか。
  - リンクするタイミングや、登録後の検索時の工夫については検討の余地があ

る。

- 重複書誌データを統合する必要があるのか。
  - 詳細案の中で新たに「並立書誌」という語を用い、統合しない重複と、統合対象とする重複とを整理した。コピーしたかのように内容が全く同じ書誌が存在する意味は特にないという結論になり、統合対象とした。
- 著者名典拠の作成を任意にした経緯は何か。
  - 典拠データの作成業務を必須にすると業務軽減につながらないと判断した。
- 和漢古書等は VOL グループの繰り返しを許可するのはなぜか。VOL を繰り返さないで表現できない資料は存在するのか。
  - VOL を分割するメリットがないと判断した資料は許可したいと考えているが、詳細は来年度作成するガイドラインに向けて検討し、記載したい。
- 親書誌の作成とリンク作業が任意で残るということは、固有のタイトルという概念が残るということか。
  - ガイドラインの検討時に考えたい。
  - 外部機関作成データをそのまま登録した場合、由来ごとに TR が異なる可能性がある。それらの取扱いを今後詰めていく必要がある。
- 委員会として「統合的発見環境」というキーワードも出しているのに、「統合」というキーワードの使い方は再検討が必要ではないか。
  - 検討して修正する。

#### [詳細案の周知方法について]

- 今年度基本方針を通知したのと同様に、委員会 Web サイトに掲載して NACSIS-CAT 参加館及び国公立大学図書館協会・協議会のメーリングリストにメールを送信する方法でよいのではないかと。
- 各地に出向いての説明会については誰に何を伝え、どういったフィードバックがほしいのか、という点を詰めた上でチャンネルを検討する必要がある。継続課題としたい。顔を合わせて意見交換を行うことは重要である。

#### (5) 委員会の平成 28 年度活動報告と平成 29 年度活動計画について（審議）

佐藤委員長より、資料 5-1～5-3 について説明があった。

審議の結果、活動報告と活動計画について承認された。次年度委員については異動等で交代があった場合は、交代する委員の役職の後任を 4 月時点の委員候補とすることとした。

#### (6) その他

事務局より、次年度委員長選出までは佐藤委員長が継続することについて提案があり、承認された。

以上

NII オープンフォーラム開催報告

平成 29 年 8 月 4 日

国立情報学研究所

1. 開催概要

(ア) 平成 28 年 6 月 8 日 (木) 10:00-15:00

(イ) 公式 URL : <http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2017/>

2. これからの学術情報システムは何を目指すのか：所蔵目録から情報資源の発見とアクセスへ

(ア) プログラム

① これからの学術情報プラットフォーム

これからの学術情報システム構築検討委員会委員長 小山 憲司 (中央大学文学部教授)

② NACSIS-CAT の軽量化・合理化について (実施方針)

NACSIS-CAT 検討作業部会主査 三角 太郎 (筑波大学学術情報部)

③ ERDB-JP—国内電子出版物の国際発信力強化に向けた取り組み

電子リソースデータ共有作業部会 北山 信一 (鹿児島大学附属図書館)

④ 電子リソース管理システムの国内利用可能性に関する検討状況

電子リソースデータ共有作業部会主査 飯野 勝則 (佛教大学図書館)

⑤ 意見交換会

モデレータ：大向 一輝 (国立情報学研究所コンテンツ科学研究系准教授)

(イ) 申込者数：午前：115 名・午後：99 名

以上



平成 29 年 8 月 4 日

## VIAF への正式参加について（報告）

## 1. Agreement 締結までの経緯

- 平成 28 年 10 月 20 日開催の第 15 回これからの学術情報システム構築検討委員会において、VIAF の正式参加について承認された。
- 平成 29 年 3 月 16 日開催の平成 28 年度第 11 回国立情報学研究所 研究所会議において、VIAF 参加のための OCLC との Agreement 締結について承認された。
- 平成 29 年 3 月 27 日付けで OCLC と Agreement を締結した。

## 2. 現況

- 平成 29 年 4 月に公開された NACSIS-CAT のデータを OCLC に送付し、5 月に VIAF のデータが更新された。
- 平成 29 年 6 月 28 日に、国立情報学研究所において、CiNii Books にバーチャル国際典拠ファイル（VIAF）との連携機能追加のプレスリリースを行った。  
（参考） <http://www.nii.ac.jp/news/release/2017/0628.html>
- 平成 29 年 7 月 3 日に、CiNii Books の著者詳細表示画面から、VIAF の著者ページに直接移動できる連携機能をリリースした。

## 3. 今後の予定

- OCLC との Agreement において、VIAF 参加館は、年 1 回以上の頻度で OCLC に典拠データを提供する規定があるため、同規定を遵守する。
- NACSIS-CAT の著者名典拠レコードが外部連携したことで、今まで以上に重要性が増すため、NACSIS-CAT/ILL ニュースレター等で、著者名典拠レコードの重要性を広報していく。

以上

平成 29 年 8 月 4 日  
電子リソースデータ共有作業部会

## 平成 29 年度活動報告

### 1. 活動中間報告

(ア) 電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築, 及び電子ブック等のメタデータの体系的な整備についての検討

- ① 図書館サービスプラットフォーム (LSP) についての調査を実施するという、本年度の活動計画に則り、LSP のデファクトスタンダードである、Ex Libris 社の Alma に関する検証を実施している
- ② 昨年度検証した ERMS (360RMC) では実現できなかった、JUSTICE 契約モデルへの適合可能性を判断するため、Alma については、コンソーシアム版と機関版 (単館版) の双方を検証している
- ③ 検証項目については、作業部会の参加機関に担当を振り分けた上で、2 週間ごとの定例会を通じて、個々の進捗状況を管理し、Ex Libris 社側と機能に関する意見交換を積み重ねているほか、6 月には NII に集合してのワークショップを 2 日間にわたって開催し、包括的な Alma の機能に関する理解を深めた

### (イ) ERDB-JP の整備

- ① ERDB-JP のデータを整備するパートナーについて、本年度は 5 機関の増加を見ており、計 52 機関となった
- ② 体系的な更新フローの導入によるデータの品質確保を実施するという活動計画に則り、7 月より国立国会図書館 ISSN 日本センター、科学技術振興機構 J-Stage とのデータ連携を開始した

### (ウ) 国際連携の推進

- ① 6 月に英国の Jisc collections、スウェーデンの Bibsam、フランスの ABES と共に、電子リソースの管理・発見環境の改善に向けてリンクリゾルバーや情報システムベンダーなどに連携を呼びかける「Open Letter」を発信したところ、7 月には Ex Libris 社から趣旨に賛同する形での公式の「Response」が返されるに至った

- ② 9月にロシアのサンクトペテルブルグで開催される Ex Libris 社のユーザーカンファレンスである IGeLU に作業部会の構成員を派遣し、電子リソースの管理基盤としての Alma に関する国際動向を把握することとした
- ③ 9月にコンソーシアムとして、Alma を共同導入したノルウェーの BIBSYS 本部、およびその導入作業の中心を担ったオスロ大学図書館に作業部会の構成員を派遣し、その実態を調査することとした

(エ) 広報・普及活動

- ① 6月のNIIのオープンフォーラムにおいて、(ア)に関する検討状況の報告を行い、「電子リソース共有作業」の目的と今後の展開可能性について、作業部会としての見解を示した
- ② 同時に(イ)の活動計画に則り、パートナーの拡大、およびパートナーとの関係強化を目的として、ERDB-JPの目的、さらに現状に関する説明を行い、パートナーへの参加を強く促した
- ③ 10月より全国で実施される「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会(仮)についても、作業部会の構成員を派遣し、各地で説明ならびに質疑応答を行うことで、「電子リソース共有作業」の目的と今後の展開可能性に関する理解促進、ならびにERDB-JPに関するパートナーの拡大、およびパートナーとの関係強化を促すこととした

平成 29 年 8 月 4 日  
NACSIS-CAT 検討作業部会

## 平成 29 年度活動報告

### 1. 課題

NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について、以下 3 点に取り組む。

- (ア) 検討状況について、定期的に参加館・ベンダーその他関係者との情報共有及び意見交換の場を設ける。
- (イ) システム連携に関する技術資料を作成し、ベンダーに提示した上で調整を実施する。
- (ウ) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について (NACSIS-CAT 詳細案)」を元に運用ガイドラインを作成する。

### 2. 活動状況

大項目	中項目	小項目	実施状況
(ア)情報共有・意見交換	①情報共有・意見交換	1.オープンフォーラム	完了
		2.意見交換会	継続
		3.その他、情報発信	継続
(イ)技術資料の作成・ベンダーとの調整	①技術資料作成	1.NACSIS-CAT 関連	継続
		2.NACSIS-ILL 関連	継続
		②ベンダーとの調整	継続
(ウ)運用ガイドラインの作成	③運用ガイドライン	1.検討項目抽出	継続
		2.基準検討	継続
		3.ガイドライン作成	継続

### 3. 活動計画と具体的な活動内容

#### 3-1. 作業部会の開催

##### (1). 第 13 回 NACSIS-CAT 検討作業部会

日時：平成 29 年 5 月 22 日 (月) 13:00-17:00

場所：国立情報学研究所 20F 実習室 2

議題：検討状況確認、平成 29 年度の活動計画について

##### (2). 第 14 回 NACSIS-CAT 検討作業部会

日時：平成 29 年 7 月 21 日 (金) 13:00-17:00

場所：国立情報学研究所 20F 講義室 2

議題：意見交換会、各チーム報告

### 3-2. 進捗状況

(ア) 検討状況について、定期的に参加館・ベンダーその他関係者との情報共有及び意見交換の場を設ける

→今年度は、「実施方針」をもとに情報発信を積極的に行う。特に各地の利用機関との対話を重視し、また研修会などの講師派遣依頼、原稿執筆などの依頼にも可能な限り積極的に対応する。

○「国立情報学研究所学術基盤オープンフォーラム」

平成 29 年 6 月 8 日開催の標記フォーラムにて、「NACSIS-CAT の軽量化・合理化について（実施方針）」と題して発表を行った。

○「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会

第 14 回 NACSIS-CAT 検討作業部会で講師を決定。発表内容については作業部会内で整理の上、委員会、電子リソースデータ共有作業部会とも調整、決定する。

(イ) システム連携に関する技術資料を作成し、ベンダーに提示した上で調整を実施する。

→平成 29 年度第三四半期中の CAT 技術資料の提示、第四四半期中の ILL 技術資料の提示に向けて、技術資料の準備を開始する。

○CAT2020 に伴う CATP の仕様追加・変更について

NII 事務局で作成したたたき台をもとに検討を開始。

○ILL、CiNii での実装

それぞれの利用時の画面展開イメージ資料を作成。それをもとに実装方法の検討を開始。

○自動登録

登録の精度向上及びスピードアップを図るために、現在の自動登録実施機関に対する調査を企画する。

(ウ)「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）」を元に運用ガイドラインを作成する。

→平成 30 年度の運用ガイドラインの公開に向けて、課題を抽出、書誌作成・名寄せなどの実施基準を検討する。

○「固有のタイトル」等書誌作成に関わる重要項目の検討を、参照 MARC データの分析等をもとに実施。

○書誌作成と重複許容の基準、名寄せ実施条件についての検討。

これからの学術情報  
システム構築検討委員会

「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会（仮）企画書（案）

## 1. 目的

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に設置された「これからの学術情報システム構築検討委員会」では、(1)電子情報資源のデータの管理・共有と(2) NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）を当面の課題として、平成 24 年度より検討を進めてきた。

(1)電子情報資源のデータの管理・共有については、国内電子リソースのナレッジベースである ERDB-JP の構築・運営に続き、電子リソース管理システムの国内利用可能性に関する検討途上であり、(2) NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）については、平成 28 年度末に「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）」を公開したところである。

これらの検討状況について、大学図書館等関係機関と共有し、意見交換の場を設けることにより、これからの学術情報システムの在り方について、検討をより一層推進することを目的とする。

## 2. 内容

- 総合司会・開会挨拶（共催校） 5分
- これからの学術情報システム構築検討委員会による検討概要 30分
- 電子情報資源のデータの管理・共有について 30分
- NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）について 30分
- 休憩 30分
- 意見交換 90分
- 閉会挨拶（共催校） 5分

## 3. 開催地区・日程

会場	日程	場所	委員会	電子	CAT
札幌	10/2(月)	かでる 27	小山	飯野	三角
福岡	10/13(金)	九州大学附属図書館視聴覚ホール	(小山)	北山	山本
京都	12/1(金)	キャンパスプラザ京都	小山	末田	大西
名古屋	12/8(金)	名工大ホール	(小山)	林	藤井
東京	12/20(水)	ベルサール神保町	小山	高橋	村上

## 4. 対象

電子情報資源及び紙媒体の情報資源について、管理・共有の実務に携わっている、もしくはこれからの管理・共有について関心がある方

※図書館システムベンダーのみなさまには、別途ご説明・意見交換の場を設ける予定であります。

## 5. 予算

会場使用料、講演者旅費等の諸経費は、国立情報学研究所が負担する。

国 情 研 コ 号  
平成 29 年 8 月 日

国公立大学図書館協力委員会 委員長  
横浜市立大学学術情報センター長  
三 浦 敬 殿

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
これからの学術情報システム構築検討委員会 委員長  
中央大学 教授

小 山 憲 司

『「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会』について（通知）

平素から大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議これからの学術情報システム構築検討委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本委員会では「電子リソースデータ共有作業部会」及び「NACSIS-CAT 検討作業部会」を設置し、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する検討を続けております。この度、全国の図書館員等のみなさまにお集まりいただき、本委員会について最新の検討状況をご報告するとともに、意見を交換させていただくためのイベントを開催することとなりましたので、ご案内をお送りすることといたしました。

つきましては、国公立大学図書館協力委員会から、国立大学図書館協会、公立大学協会図書館協議会、私立大学図書館協会の関係者の方々に別紙の通知文書をご案内くださいますようお願い申し上げます。

担当：これからの学術情報システム構築検討委員会事務局  
電話：03-4212-2330 FAX：03-4212-2375  
電子メール：co\_korekara@nii.ac.jp

国 情 研 コ 第 号  
平 成 29 年 8 月 日

国立大学図書館協会  
公立大学協会図書館協議会 各加盟館の長 殿  
私立大学図書館協会

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
これからの学術情報システム構築検討委員会 委員長  
中央大学 教授

小 山 憲 司

『「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会』について（通知）

平素から大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議これからの学術情報システム構築検討委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本委員会では「電子リソースデータ共有作業部会」及び「NACSIS-CAT 検討作業部会」を設置し、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する検討を続けております。この度、全国の図書館員等のみなさまにお集まりいただき、本委員会について最新の検討状況をご報告するとともに、意見を交換させていただくためのイベントを開催することとなりましたので、別紙 1 のとおりご案内をお送りすることといたしました。

今後の大学図書館業務に深く関わる内容となりますので、ご参加いただき、ご意見を頂戴できますようご協力をお願いいたします。

【参考】

・「これからの学術情報システム構築検討委員会」ウェブサイト

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/>

お問い合わせ先：

これからの学術情報システム構築検討委員会事務局  
(国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
学術コンテンツ整備チーム 片岡・阪口・古橋)

住所：〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

電話：03-4212-2330 FAX：03-4212-2375

電子メール：co\_korekara@nii.ac.jp



これからの学術情報  
システム構築検討委員会

「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会

1. 目的

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に設置された「これからの学術情報システム構築検討委員会」では、(1)電子情報資源のデータの管理・共有と(2) NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）を当面の課題として、平成 24 年度より検討を進めてきました。

(1)電子情報資源のデータの管理・共有については、国内電子リソースのナレッジベースである ERDB-JP の構築・運営に続き、電子リソース管理システムの国内利用可能性に関する検討途上であり、(2) NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）については、平成 28 年度末に「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（実施方針）」を公開いたしました。

これらの検討状況について、大学図書館等関係機関と共有し、意見交換の場を設けることにより、これからの学術情報システムの在り方について、検討をより一層推進することを目的としています。

2. 対象

電子情報資源及び紙媒体の情報資源について、管理・共有の実務に携わっている、もしくはこれからの管理・共有について関心がある方

※図書館システムベンダーのみなさまには、別途ご説明・意見交換の場を設ける予定であります。

3. 内容 ※会場によって多少時間が前後いたします。

内容	時間
これからの学術情報システム構築検討委員会による検討概要	30 分
電子情報資源のデータの管理・共有について	30 分
NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）について	30 分
休憩	30 分
意見交換	90 分

4. 開催日・会場

会場	日程	時間	場所
札幌	平成 29 年 10 月 2 日(月)	14:00～ 17:15	北海道立道民活動センター かでの 27
福岡	平成 29 年 10 月 13 日(金)	13:00～ 16:40	九州大学附属図書館視聴覚ホール

京都	平成 29 年 12 月 1 日(金)	13:00～ 16:40	キャンパスプラザ京都
名古屋	平成 29 年 12 月 8 日(金)	13:00～ 16:40	名古屋工業大学 NITech Hall
東京	平成 29 年 12 月 20 日(水)	13:00～ 16:40	ベルサール神保町

#### 5. お申し込み方法

下記のサイトよりお申し込みください。

各回とも申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/event/forum2017.html>

※お申込みフォームにはクライゼルを使用しております。

開催場所ごとの定員・お申込み開始日は以下のとおりです。

会場	定員	お申込み開始日
札幌	80 名	平成 29 年 8 月 7 日(月)
福岡	150 名	
京都	250 名	平成 29 年 10 月 2 日(月)
名古屋	150 名	
東京	260 名	

#### 6. ご質問・ご意見の事前受付

事前に当委員会の活動内容・検討事項に関するご質問・ご意見等を下記のフォームにて受け付けます。組織単位・個人単位のどちらで入力いただいても結構です。

※当日の参加・不参加に関わらずお寄せください。

※当日参加の方は会場でも受付をいたします。

受付期間：平成 29 年 8 月 7 日(月)～9 月 15 日(金)

[https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017\\_q](https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017_q)

※入力フォームには SurveyMonkey を使用しております。

#### 7. 主催・共催

主催：大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

共催：北海道大学，九州大学，京都大学，名古屋大学，名古屋工業大学

以上

国 情 研 コ 号  
平成 29 年 8 月 日

目録所在情報サービス参加館 各位

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
これからの学術情報システム構築検討委員会 委員長  
中央大学 教授

小 山 憲 司

『「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会』について（通知）

平素から大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議これからの学術情報システム構築検討委員会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本委員会では「電子リソースデータ共有作業部会」及び「NACSIS-CAT 検討作業部会」を設置し、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する検討を続けております。この度、全国の図書館員等のみなさまにお集まりいただき、本委員会について最新の検討状況をご報告するとともに、意見を交換させていただくためのイベントを開催することとなりましたので、別紙1のとおりご案内をお送りすることといたしました。

今後の図書館業務に深く関わる内容となりますので、ご参加いただき、ご意見を頂戴できますようご協力をお願いいたします。

【参考】

- ・「これからの学術情報システム構築検討委員会」ウェブサイト

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/>

お問い合わせ先：

これからの学術情報システム構築検討委員会事務局  
(国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課  
学術コンテンツ整備チーム 片岡・阪口・古橋)

住所：〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

電話：03-4212-2330 FAX：03-4212-2375

電子メール：co\_korekara@nii.ac.jp

これからの学術情報  
システム構築検討委員会

「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会

1. 目的

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議の下に設置された「これからの学術情報システム構築検討委員会」では、(1)電子情報資源のデータの管理・共有と(2)NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)を当面の課題として、平成24年度より検討を進めてきました。

(1)電子情報資源のデータの管理・共有については、国内電子リソースのナレッジベースであるERDB-JPの構築・運営に続き、電子リソース管理システムの国内利用可能性に関する検討途上であり、(2)NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)については、平成28年度末に「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について(実施方針)」を公開いたしました。

これらの検討状況について、大学図書館等関係機関と共有し、意見交換の場を設けることにより、これからの学術情報システムの在り方について、検討をより一層推進することを目的としています。

2. 対象

電子情報資源及び紙媒体の情報資源について、管理・共有の実務に携わっている、もしくはこれからの管理・共有について関心がある方

※図書館システムベンダーのみなさまには、別途ご説明・意見交換の場を設ける予定しております。

3. 内容 ※会場によって多少時間が前後いたします。

内容	時間
これからの学術情報システム構築検討委員会による検討概要	30分
電子情報資源のデータの管理・共有について	30分
NACSIS-CAT/ILLの再構築(軽量化・合理化)について	30分
休憩	30分
意見交換	90分

4. 開催日・会場

会場	日程	時間	場所
札幌	平成29年10月2日(月)	14:00～ 17:15	北海道立道民活動センター かでの27
福岡	平成29年10月13日(金)	13:00～ 16:40	九州大学附属図書館視聴覚ホール

京都	平成 29 年 12 月 1 日(金)	13:00～ 16:40	キャンパスプラザ京都
名古屋	平成 29 年 12 月 8 日(金)	13:00～ 16:40	名古屋工業大学 NITech Hall
東京	平成 29 年 12 月 20 日(水)	13:00～ 16:40	ベルサール神保町

## 5. お申し込み方法

下記のサイトよりお申し込みください。

各回とも申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/event/forum2017.html>

※お申し込みフォームにはクライゼルを使用しております。

開催場所ごとの定員・お申込み開始日は以下のとおりです。

会場	定員	お申込み開始日
札幌	80 名	平成 29 年 8 月 7 日(月)
福岡	150 名	
京都	250 名	平成 29 年 10 月 2 日(月)
名古屋	150 名	
東京	260 名	

## 6. ご質問・ご意見の事前受付

事前に当委員会の活動内容・検討事項に関するご質問・ご意見等を下記のフォームにて受け付けます。組織単位・個人単位のどちらで入力いただいても結構です。

※当日の参加・不参加に関わらずお寄せください。

※当日参加の方は会場でも受付をいたします。

受付期間：平成 29 年 8 月 7 日(月)～9 月 15 日(金)

[https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017\\_q](https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017_q)

※入力フォームには SurveyMonkey を使用しております。

## 7. 主催・共催

主催：大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

共催：北海道大学，九州大学，京都大学，名古屋大学，名古屋工業大学

以上

これからの  
学術情報システム  
構築検討委員会  
意見交換会  
2017

◎お問合せ

国立情報学研究所

学術基盤推進部 学術コンテンツ課

これからの学術情報システム構築検討委員会事務局

co\_korekara@nii.ac.jp

◎ご意見・ご質問の事前受付

受付期間:8/7(月)~9/15(金)

[https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017\\_q](https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017_q)

札幌会場

10/2  
月

福岡会場

10/13  
金

京都会場

12/1  
金

名古屋会場

12/8  
金

東京会場

12/20  
水

## 申込方法

以下の URL にアクセスしてお申込みください

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/event/forum2017.html>

お申込開始日 札幌・福岡会場：8/7(月) 京都・名古屋・東京会場：10/2(月)

主催 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

共催 北海道大学, 九州大学, 京都大学, 名古屋大学, 名古屋工業大学

# 趣旨

これからの学術情報システム構築検討委員会では「電子リソースデータ共有作業部会」及び「NACSIS-CAT 検討作業部会」を設置し、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する検討を続けております。この度、全国の図書館員等にお集まりいただき、本委員会について最新の検討状況をご報告するとともに、みなさまと意見を交換させていただくためのイベントを開催することとなりました。

今後の図書館業務に深く関わる内容となりますので、ご参加いただき、ご意見を頂戴できますようご協力をお願いいたします。

なお、図書館システムベンダーのみなさまには、別途ご説明・意見交換の場を設ける予定でおります。

# プログラム

これからの学術情報システム構築検討委員会による検討概要  
電子情報資源のデータの管理・共有について  
NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）について  
休憩  
意見交換

札幌：80名

会場：北海道立道民活動センター かでる 27 1060 会議室  
札幌市中央区北 2 条西 7 丁目  
日時：2017/10/2(月) 13:30 受付開始 14:00～17:15

福岡：150名

会場：九州大学附属図書館 視聴覚ホール（箱崎キャンパス）  
福岡市東区箱崎 6 丁目 10-1  
日時：2017/10/13(金) 12:30 受付開始 13:00～16:40

京都：250名

会場：キャンパスプラザ京都 第 1 講義室  
京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町 939  
日時：2017/12/1(金) 12:30 受付開始 13:00～16:40

名古屋：150名

会場：NITech Hall（ナイツックホール）  
名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学  
日時：2017/12/8(金) 12:30 受付開始 13:00～16:40

東京：260名

会場：ベルサール神保町 Room3+4+5  
東京都千代田区西神田 3-2-1  
日時：2017/12/20(水) 12:30 受付開始 13:00～16:40

平成 27 年 5 月 29 日  
これからの学術情報システム構築検討委員会

### これからの学術情報システムの在り方について

「大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議」の下に設置された本委員会では、標記に係る状況を以下のように捉え、特に NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化を最重要課題として、国公私立大学図書館等が国立情報学研究所と連携して解決していくための方策を検討している。

#### 1. 取り巻く環境の変化

学術審議会答申「今後における学術情報システムの在り方について」（1980 年）を受け、1985 年に総合目録データベースの形成と図書館間相互利用を目的とする「目録所在情報サービス」の運用が開始されて以来、今日までに学術情報を取り巻く環境には様々な変化が起きている。特に、電子ジャーナルをはじめとした電子情報資源の普及によって、資料の流通・管理のあり方が大きく変貌したこと、また研究者、学生の情報利用や研究・教育のプロセスがますます電子的手段を前提とするものになっていることへの対応が急務となっている。

NACSIS-CAT/ILL を中核とした従来のシステムの軽量化・合理化を図りつつ、そうした変化への対応を行えるシステムの整備を目指す必要がある。

#### 2. 進むべき方向性

これからの学術情報システムに求められるのは、ユーザーが必要とする学術情報を直接的かつ迅速に入手することができる環境であり、これらを実現するために、以下の 3 点を推進する必要がある。

##### (1) 統合的発見環境の提供

電子情報資源・印刷体を区別することなく統合的に発見し、さらに、最終的に必要とする学術情報にアクセスできる環境を構築する。

##### (2) メタデータの標準化

標準化されたメタデータを利用することで、以下を推進する。

###### ① 学術情報の発見可能性の強化

###### ② 他機関（出版者、NDL、OCLC 等）との連携による、メタデータの標準化と相互利用

##### (3) 学術情報資源の確保

従来の印刷体に加えて幅広く電子情報資源を確保するとともに、過去の資料の電子化を推進し、活用を図る。

#### 3. 本委員会の当面の課題

上記の学術情報資源の変化に鑑み、進むべき方向性を見据えて、以下の 2 点を当面の課題とする。

##### (1) 電子情報資源のデータの管理・共有

##### (2) NACSIS-CAT/ILL の再構築（軽量化・合理化）



4. 大学図書館等と国立情報学研究所の連携による取組み
- 検討を加速化するために、大学図書館等と国立情報学研究所との連携の下、以下のように取組みを進める。
- (1) 本委員会のもとに検討作業部会を設置する。
  - (2) ライセンスされた電子リソースの確保を強化する「大学図書館コンソーシアム連合」、大学の研究成果の発信システムを強化する「機関リポジトリ推進委員会」とともに課題の解決に向けた具体的な取組みに着手する。
  - (3) 大学図書館の各協(議)会等での主体的な取組みと一層の連携を図る。

※ 本委員会における検討状況は、以下でご確認いただけます。  
<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/about/document/>

## 第15回 これからの学術情報システム構築検討委員会 議事要旨（抜粋）

1. 日時：平成28年10月20日（木）14：00～17：00

2. 場所：学術総合センター 20階 実習室1

3. 出席者：

（委員）

佐藤 義則	東北学院大学 文学部 教授
熊淵 智行	東京大学附属図書館 情報管理課長
甲斐 重武	京都大学附属図書館 事務部長
山田 奈々	青森県立保健大学 図書課 主査
原 修	立教大学図書館 利用支援課 課長
近藤 茂生	立命館大学図書館 学術情報部 次長
小山 憲司	中央大学 文学部 教授
細川 聖二	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課長
吉田 幸苗	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 副課長

（欠席）

渡邊 俊彦	鹿児島大学 学術情報部長
呑海 沙織	筑波大学 図書館情報メディア系 教授
大向 一輝	国立情報学研究所 コンテンツ科学系 准教授／学術基盤推進部 学術コンテンツ課 コンテンツシステム開発室長・図書室長

（陪席）

小野 亘	東京学芸大学 教育研究支援部 学術情報課長
佐藤 初美	筑波大学 学術情報部 アカデミックサポート課長
酒井 清彦	国立情報学研究所 学術基盤推進部 次長

（事務局）

上村 順一	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長（CiNii/新CAT担当）
阪口 幸治	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係長（CAT/ILL担当）
古橋 英枝	国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課 学術コンテンツ整備チーム係員（CAT/ILL担当）

<配付資料>

委員名簿

1. 第14回これからの学術情報システム構築検討委員会議事要旨（案）
- 2-1. 平成28年度電子リソースデータ共有作業部会の活動経過報告
- 2-2. 電子リソース管理システムの利用可能性の検証について（平成28年度中間報告）
- 2-3. 海外出張（Orbis Cascade Alliance 視察）企画書
- 3-1. NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）
- 3-2. 2020年以降のシステム全体図
- 3-3. 2020年以降のシステム全体図（用語定義表）
4. VIAFへの正式参加について
5. 「これからの学術情報システム構築検討委員会」課題整理【まとめ】
6. 第18回図書館総合展  
NIIフォーラム「NACSIS-CAT/ILLと電子リソース：2020年の学術情報システム」

参考資料

1. VIAF参加協議の開始について

4. 議事：

（5）今後の学術情報システム構築検討に係る課題整理

佐藤委員長より、資料5に関して再整理の提案があった。

審議の結果、今回提案のあった「協力体制の確立」「総合的発見環境」「コレクション」について次回以降検討を進めていくこととなった。

審議にあたって行われた質疑・意見交換は次のとおりである。

- NACSIS-CAT/ILLについてはJUSTICEやJPCOARのようなコミュニティが存在しておらず、意思決定機関がない。今後組織作りが必要なのではないか。
  - JUSTICE・JPCOARに続いて、となると特に参加費用に関して負担に感じる参加館が出てくるのではないかと。事務局の維持についても、各機関がどのように支援していけるのか検討が必要だと感じている。
  - 拠出金額の用途が明瞭かつ参加のメリットが感じられるのであれば支払うことに抵抗はないのではないかと。
  - NACSIS-CATについては30年間無料だった実績があり、少なくとも金額的に今よりも安くなる、という議論にはならない。
  - しかし一方で無料である以上いつ停止しても不思議ではないのも事実である。停止させないための参加館からの意思表示の一つとして一定額支払うというのは考えられるのではないかと。
  - 地域ごとのサポート体制やコミュニティも作ってもらえるのであればメリットが感じられるのではないかと。
  - NACSIS-CATの参加館には大学以外に高専や共同利用機関、一部の公共図書館、

病院図書室、海外機関もいる。あらゆる参加館が理解できるような形で進めていく必要がある。

- 従来の NACSIS-CAT は共同目録システムで、所蔵はあくまでも個々の機関でデータを付与するだけだったが、今後は電子資料も含めて共同構築するコレクションというものがその上に出来つつある。そういった共同プロジェクトへの参加費という考え方もあるのではないか。
  - 2 年前に整理した時点では「デジタルイズ」という名称で課題整理をしたが、今後は「コレクション」という名称で検討を進める必要がある。
- ILL の電子ファイル提供についても、国際標準から遅れている点が長年の懸案である。
  - 著作権料を支払ってでも入手したい、という要望もあるかもしれない。
  - 本委員会で検討して推進会議に提案し、最終的に国公私協力委員会からしかるべき機関に要請していただく、ということも考えられる。
- 総合的発見環境についても議論が必要である。
  - システム構築という意味ではディスカバリ・サービスと変わらないが、重要なことはシステム構築ではなく、そういった環境を業界全体としてどう仕組み作りをしていくのか、という検討を本委員会では進める必要があると認識している。
  - 2 年前に整理した時点で具体的にブレークダウンして前に進めることができる対象が NACSIS-CAT であり、ERDB-JP であった。再度全体を俯瞰し、次の目標設定をするタイミングなのではないか。

以上

これからの学術情報システム構築検討委員会規程（案）

〔平成24年7月20日〕  
制 定

改正 平成26年7月20日  
平成27年2月18日  
平成27年3月13日

（設置）

第1条 大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議（以下「推進会議」という。）の下に、これからの学術システム構築検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（目的）

第2条 委員会は、協定書の第2条第1項に掲げる事項のうち、（3）「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的とする。さらに、同項の（4）「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および（5）「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、（3）に関連するものを含むものとする。

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 国公立大学図書館の職員
  - 二 国立情報学研究所の職員
  - 三 その他連携・推進会議の委員長が必要と認めた者
- 2 委員は、連携・推進会議の委員長が委嘱する。

（任期）

第4条 委員および協力員の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長）

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選によって選出する。

- 2 委員長の任期は、4月1日から翌年3月31日までの1年間とする。ただし、再任を妨げない。

（作業部会）

第6条 委員会は、必要に応じて作業部会を設置することができる。

- 2 作業部会に主査を置く。主査は、委員長の推薦により、委員会の議を経て委員長が委嘱する。
- 3 作業部会の設置期間は、別に定める。
- 4 作業部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
- 一 国公立大学図書館の職員
  - 二 国立情報学研究所の職員

三 その他委員長が必要と認めた者

5 作業部会委員は、作業部会主査の推薦により、委員長が委嘱する。

6 作業部会の運営に関する細則は、別に定める。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会において別に定める。

附 則

この規程は、平成24年7月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年7月20日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年2月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年3月13日から施行する。

平成 29 年 7 月 11 日  
これからの学術情報  
システム構築検討委員会

## 平成 29 年度 これからの学術情報システム構築検討委員会活動報告

### 1. 活動体制

#### (1) 委員会

- ・委員の構成：国公立大学図書館（6名）、国立情報学研究所（3名）、有識者（3名）
- ・委員長：小山憲司（中央大学教授）

#### (2) 事務局

- ・国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課

### 2. 委員会のミッション

#### (1) 委員会規程第2条

委員会は、「大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所と国公立大学図書館協力委員会との間における連携・協力の推進に関する協定書」の第2条第1項に掲げる事項のうち、(3)「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する事項を企画・立案し、学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を推進することを目的とする。さらに、同項の(4)「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および(5)「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、(3)に関連するものを含むものとする。

#### (2) 本年度のミッション

学術情報資源の基盤構築、管理、共有および提供にかかる活動を一層推進するため、各作業部会で集中的に取り組んでいる当面の課題（NACSIS-CAT/ILLの再構築及び電子情報資源のデータの管理・共有）を越えて、学術情報システムの在り方に対する喫緊の課題を検討する。

(ア) 平成 27 年 5 月 29 日付で公開した「これからの学術情報システムの在り方について」の議論をさらに発展させた、優先的に取り組むべき課題の整理を行う。具体的には、システム（統合的発見環境の提供）、メタデータ（標準化、相互利用）、学術情報資源の確保と流通（電子化、保存、コレクション、ILL）といった諸課題が該当する。

(イ) 上記の課題の検討・達成のためのコミュニティの在り方、特に従来の NACSIS-CAT/ILL 参加館のコミュニティの枠組みを越えて、学術情報流通基盤に関連する既存のコミュニティ（大学図書館コンソーシアム連合、オープンアクセスリポジトリ推進協会）や組織・団体（国公立大学の各協会、国立国会図書館、科学技術振興機構等）との連携・協力の強化も含めた、持続的かつ実行性のあるコミュニティの在り方とその実現に向けた方策について検討する。

### 3. 活動状況

#### (1) 委員会での協議

回次	開催日	主な検討内容
第17回	平成29年8月4日 (予定)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 学術情報システムの在り方について</li><li>・ 今後の学術情報システムに関する意見交換会の実施について</li><li>・ 各作業部会の検討状況の確認</li></ul>

#### (2) 「これからの学術情報システムの在り方について」の議論の発展

平成29年6月8日に開催された国立情報学研究所の学術情報基盤オープンフォーラム2017にて、これからの学術情報システム構築検討委員会として「これからの学術情報プラットフォーム」と題した発表を行い、システムの検討や図書館業務の見直しだけでなく、今後の学術情報流通の在り様やそのための仕組みはどうあるべきか等、今年度の検討の素案（委員長私見）として提示した。

#### (3) 作業部会の活動

##### (ア) 電子リソースデータ共有作業部会

##### ① 電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築の検討

世界25ヶ国・地域の31コンソーシアムで導入されている図書館サービスプラットフォームであるEx Libris社のAlmaについて検証中

##### ② 国内電子リソースのナレッジベース（以下、ERDB-JP）の運用

（平成29年6月現在のパートナー数：49機関、コンテンツ数：12,495件）

- ・ 国立国会図書館ISSN日本センター、科学技術振興機構J-Stageのデータ収集・連携の開始

##### ③ 国際連携

- ・ 欧州のオープンナレッジベース運用団体である英国のKB+を運営するJisc Collections, KB+のデータの一部を構築するスウェーデンのBibsam, フランスのBACONを運営するABESの3団体と共同で、リンクリゾルバや情報システムベンダーなどに連携を呼びかけるOpen Letter(公開状)を発信
- ・ ノルウェー国内の100機関以上が参加するコンソーシアムBIBSYSが2013年に共同導入したAlma/Primoについて、University of Oslo及びBIBSYS本部への訪問調査を実施予定(9/18-19)
- ・ Alma/Primo等Ex Libris社製品を利用する機関による国際的なユーザー会IGeLUに参加し、最新動向について調査予定(9/9-14)

##### (イ) NACSIS-CAT 検討作業部会

##### ① 「NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化について（実施方針）」の提案

- ・ (4)に記載するイベントにおいて、関係各所に実施方針を提案するとともに、より詳細な運用ガイドラインの作成のための意見交換を実施予定



② 講師派遣

- ・ 「LIMEDIO セミナー 2017 (大阪：8/2、東京：8/7)」に講師各1名を派遣予定。

(4) イベント

NIIの学術情報基盤オープンフォーラム2017(6月開催済み)に加え、参加館・ベンダー・その他関係者との検討状況の共有・意見交換会を9月～12月頃までに全国5か所程度で開催する。本イベントは、NACSIS-CATの軽量化・合理化のみでなく、電子情報資源データの管理・運用も含めた、今後の学術情報システムについての検討・意見交換の場とする。

・学術情報基盤オープンフォーラム2017(6月8日)

NII主催の学術基盤オープンフォーラム2017において、「これからの学術情報システムは何を目指すのか：所蔵目録から情報資源の発見とアクセスへ」と題して以下の報告及び意見交換を実施し、115名(午前)・99名(午後)の参加があった。

「これからの学術情報プラットフォーム」

「NACSIS-CATの軽量化・合理化について(実施方針)」

「ERDB-JP—国内電子出版物の国際発信力強化に向けた取り組み」

「電子リソース管理システムの国内利用可能性に関する検討状況」

(5) 平成29年度委員等名簿(平成29年7月11日現在)

(ア) これからの学術情報システム構築検討委員会委員

氏名	所属機関・職名	備考
小山 憲司	中央大学文学部教授	委員長
相原 雪乃	北海道大学附属図書館管理課長	
佐藤 初美	東北大学附属図書館情報管理課長	
米澤 誠	京都大学附属図書館事務部長	
栗谷 禎子	公立はこだて未来大学情報ライブラリー	
原 修	立教大学図書館利用支援課課長	
近藤 茂生	立命館大学学術情報部次長	
呑海 沙織	筑波大学図書館情報メディア系教授	
佐藤 義則	東北学院大学文学部教授	
大向 一輝	国立情報学研究所コンテンツ科学系准教授	
小野 亘	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	
吉田 幸苗	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課副課長	

## (イ) 電子リソースデータ共有作業部会委員

氏名	所属機関・職名	備考
飯野 勝則	佛教大学図書館専門員	主査
本間静一郎	北海道大学附属図書館管理課雑誌受入担当係長	
上野 友稔	電気通信大学学術情報課専門職員(学術情報サービス担当)	
末田真樹子	神戸大学経済経営研究所図書係	
北山 信一	鹿児島大学学術情報部情報管理課学術コンテンツ係	
林 賢紀	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター 企画連携部情報広報室情報管理科情報管理係	
山形 知実	国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室	
佐藤 亮太	東京工業大学研究推進部情報図書館課情報管理グループ	協力員
高橋由里子	早稲田大学図書館資料管理課係員	協力員
南山 泰之	情報・システム研究機構国立極地研究所情報図書室	協力員

## (ウ) NACSIS-CAT 検討作業部会委員

氏名	所属	備考
三角 太郎	筑波大学学術情報部アカデミックサポート課長	主査
渡邊 愛子	東北大学附属図書館医学分館整理係長	
木下 直	東京大学附属図書館総務課専門員	
村上 遥	東京外国語大学総務企画部学術情報課目録係	
藤井 眞樹	横浜国立大学図書館・情報部図書館情報課図書管理係長	
大西 賢人	京都大学附属図書館学術支援課電子リソース掛	
山本 豪	徳島大学学術情報部図書情報課雑誌情報係	
河手 太士	天使大学事務局図書情報課主幹	

以上

平成 29 年 1 月 30 日  
電子リソースデータ共有作業部会

平成 29 年度活動計画（案）

1. 目的

統合的発見環境の実現に向けた電子リソース管理・提供基盤の形成

2. 課題

- 電子リソースの管理基盤・ワークフローの構築
- 電子ブック等のメタデータの体系的な整備
- 国内刊行電子リソースのナレッジベース（ERDB-JP）について、自律的なコンテンツ維持管理体制の整備
- 持続的な電子リソース管理・提供基盤形成に向けた国際連携

3. 活動計画

(ア) 電子リソース業務の管理基盤・ワークフロー構築，及び電子ブック等のメタデータの体系的な整備についての検討

ジャーナルパッケージのキャンセルや電子ブック導入の本格化に伴い，適切な電子リソース管理が不可欠であるとの観点に立ち，図書館サービスプラットフォーム（LSP）についての調査を実施し，JUSTICE コンソーシアム環境下での電子リソース情報（パッケージ，タイトル，モデルライセンス）の適切な管理・提供のため，以下について提案を行う（図参照）。

- ① 機関固有のワークフローやデータ管理機能
- ② コンソーシアム全体で管理される情報の管理・共有
- ③ 電子ブック等のメタデータの体系的な整備についての検討

電子リソースデータの効率的な活用・流通を促進するため，電子ブック等のメタデータのデータソース，データ交換形式（Linked Open Data 等を含む）及び流通方法について検討する。

- ④ 適切な電子リソース管理による利用活性化や利用者サービスの向上

(イ) ERDB-JP の整備

- ① パートナーとの関係強化

機関リポジトリコミュニティ，出版社や電子リソース・プラットフォームとの連携を行い，パートナー拡大とともに，関係強化を行う。

(ア) 機関リポジトリに関する講習会等で ERDB-JP の説明を行い，パートナー参加や機関リポジトリ連携を促進する。

(イ) NII の説明会等の機会を活用し，ERDB-JP の普及，パートナー機関のサポート等を行う。

(ウ) 戦略的に連携すべき出版社や電子リソース・プラットフォーム等を把握し、連携のための協議を進める。

② 体系的なデータ更新フローの導入によるデータの品質確保

体系的なデータ更新フローを導入し、パートナーによる自律的なコンテンツ維持管理を検討する。

(ア) 機関リポジトリ等と、紀要等のタイトル情報のデータ連携を実施する。

(イ) 医中誌刊行会が管理する国内の医学系雑誌情報とのデータ連携を行う。

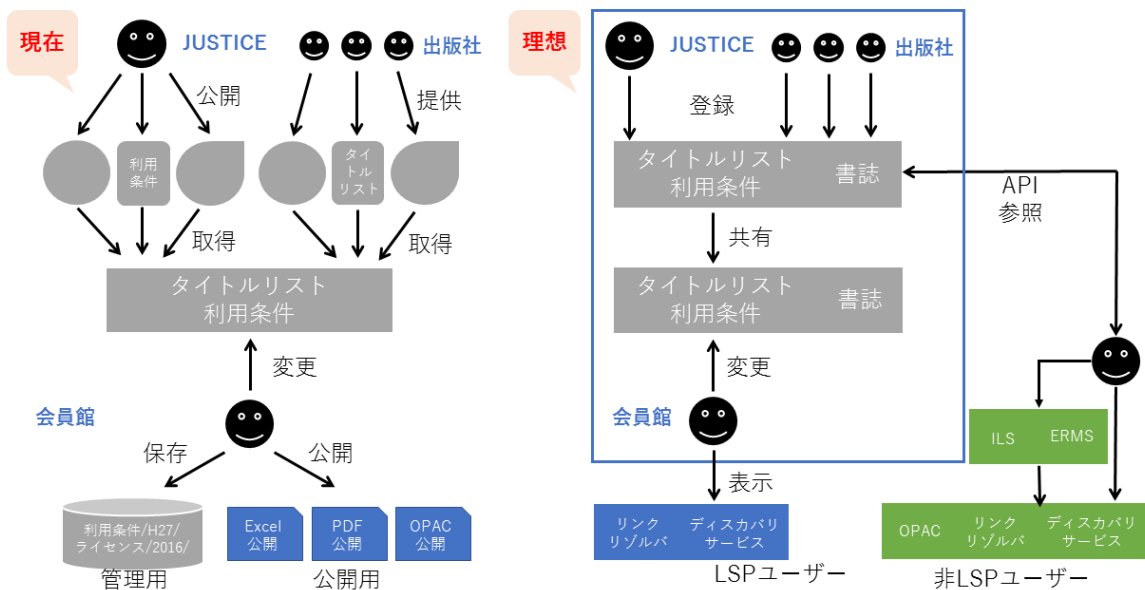
(ウ) 国立国会図書館 ISSN 日本センター，科学技術振興機構 J-Stage とのデータ連携を行う。

(エ) 新規登録コンテンツの確認，リンク切れ点検，ERDB-JP データ作成ガイドラインの更新を行う。

(ウ) 国際連携の推進

国際会議等へ参加し，電子リソースの管理基盤・ワークフロー構築や電子ブック等のメタデータの体系的な整備について国際動向を把握するとともに，GOKb その他の海外組織（大学，コンソーシアム，国レベルの組織，ベンダー等）との連携協議を行う。

以上



平成 29 年 1 月 30 日  
NACSIS-CAT 検討作業部会

平成 29 年度活動計画（案）

1. 課題

NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について、以下 3 点に取り組む。

- (ア) 検討状況について、定期的に参加館・ベンダーその他関係者との情報共有及び意見交換の場を設ける。
- (イ) システム連携に関する技術資料を作成し、ベンダーに提示した上で調整を実施する。
- (ウ) 「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）」を元に運用ガイドラインを作成する。

2. 活動計画

(ア) 情報共有・意見交換

「国立情報学研究所学術基盤オープンフォーラム」や「図書館総合展」等の場を利用し、参加館・ベンダーその他関係者との情報共有及び意見交換を実施する。各イベントについて、国立情報学研究所と協力し、内容について企画・提案を行う。

(イ) 技術資料の作成・ベンダーとの調整

「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）」を元に、NACSIS-CAT/ILL と図書館システムとのシステム連携に関する技術資料を作成し、ベンダーに提示した上で内容の調整を実施する。

(ウ) 運用ガイドラインの作成

「NACSIS-CAT/ILL の軽量化・合理化について（NACSIS-CAT 詳細案）」に従って運用を実施した場合のガイドラインを作成し、平成 30 年度の委員会に提案する。

以上

「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会 Web サイト案



HOME > ドキュメント > イベント

- ドキュメント
- ▷ ドキュメント
- ▷ イベント
- 意見交換会2017

## 意見交換会2017

ポスター（印刷して自由にご利用ください）



### 1.趣旨

これからの学術情報システム構築検討委員会では「電子リソースデータ共有作業部会」及び「NACSIS-CAT検討作業部会」を設置し、「電子情報資源を含む総合目録データベースの強化」に関する検討を続けております。この度、全国の図書館員等にお集まりいただき、本委員会について最新の検討状況をご報告するとともに、みなさまと意見を交換させていただくためのイベントを開催することとなりました。

今後の図書館業務に深く関わる内容となりますので、ご参加いただき、ご意見を頂戴できますようご協力をお願いいたします。

### 2.対象

電子情報資源及び紙媒体の情報資源について、管理・共有の実務に携わっている、もしくはこれからの管理・共有について関心がある方

※図書館システムベンダーのみなさまには、別途ご説明・意見交換の場を設ける予定です。

### 3.プログラム

内容	時間
これからの学術情報システム構築検討委員会による検討概要	30分
電子情報資源のデータの管理・共有について	30分
NACSIS-CAT/ILLの再構築（軽量化・合理化）について	30分
休憩	30分
意見交換	90分

#### 4.開催日・会場

会場	日程	時間	場所
札幌	平成29年10月2日(月)	14:00~17:15	<a href="#">北海道立道民活動センターかでの27</a>
福岡	平成29年10月13日(金)	13:00~16:40	九州大学附属図書館視聴覚ホール
京都	平成29年12月1日(金)	13:00~16:40	キャンパスプラザ京都
名古屋	平成29年12月8日(金)	13:00~16:40	名古屋工業大学NITech Hall
東京	平成29年12月20日(水)	13:00~16:40	<a href="#">ベルサール神保町</a>

#### 5.お申込み

下記よりお申込みフォームにアクセスしてください。  
各回とも申込先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。  
※お申込みフォームにはクライゼルを使用しております。

会場	定員	受付開始日	お申込フォーム
札幌	80名	平成29年8月7日(月)	<a href="#">札幌会場の参加申込</a>
福岡	150名		<a href="#">福岡会場の参加申込</a>
京都	250名	平成29年10月2日(月)	<a href="#">京都会場の参加申込</a>
名古屋	150名		<a href="#">名古屋会場の参加申込</a>
東京	260名		<a href="#">東京会場の参加申込</a>

#### 6.ご意見・ご質問の事前受付

当日の意見交換の内容充実のため、事前に当委員会の活動内容・検討事項に関するご質問・ご意見等を下記のフォームにて受け付けます。組織単位・個人単位のどちらで入力いただいても結構です。  
※当日の参加・不参加に関わらずお寄せください。  
※当日参加の方は会場でも受付をいたします。

受付期間：平成29年8月7日(月)~9月15日(金)

[ご意見・ご質問の入力](#)

※入力フォームにはSurveyMonkeyを使用しております。

#### 7.主催・共催

主催：大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
共催：北海道大学，九州大学，京都大学，名古屋大学，名古屋工業大学

#### 8.本件お問合せ先

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
これからの学術情報システム構築検討委員会事務局  
メールアドレス：co\_korekara[at]nii.ac.jp

[▲ページTOPへ戻る](#)

最終更新日：2017年8月7日

「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会申込フォーム案

## これからの学術情報システム構築検討委員会

### 『「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会』申込受付（札幌会場）

このサイトは『「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会』札幌会場の参加申込フォームです。

【お申込会場】

札幌会場（北海道立道民活動センター かでる27 1060会議室）

【開催日時】

平成29年10月2日(月)

14:00～17:15（13:30受付開始）

【プログラム詳細】

<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/event/forum2017.html>

【ご意見・ご質問の事前受付】

[https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017\\_q](https://jp.surveymonkey.com/r/korekara2017_q)

【お問い合わせ先】

大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

これからの学術情報システム構築検討委員会事務局

メールアドレス：co\_korekara[at]nii.ac.jp

※ご記入いただきました個人情報につきましては、本イベントの運営にのみ使用いたします。

（必須）の項目は必ずご入力ください

所属機関名 <small>（必須）</small>	<input type="text"/>
所属部署名 <small>（必須）</small>	<input type="text"/>
氏名 <small>（必須）</small>	<input type="text"/>
メールアドレス <small>（必須）</small>	<input type="text"/> <small>（半角のみ：メールアドレス）</small>

次へ →



「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会  
ご意見・ご質問事前受付フォーム

1 ページ目

これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システム構築検討委員会意見交換会：ご意見・ご質問事前受付

⊕ ページタイトル

このサイトは『「これからの学術情報システム構築検討委員会」意見交換会』のご意見・ご質問事前受付サイトです。  
参加申込フォームではありませんので、ご注意ください。  
組織単位・個人単位のどちらで入力いただいても結構です。  
※当日の参加・不参加に関わらずお寄せください。  
※当日参加の方は会場でも受付をいたします。

ご記入いただいたご意見・ご質問は可能な範囲で意見交換会当日に回答いたします。  
時間の都合上、取り上げることができない場合もございますので、ご了承ください。  
意見交換の場でご所属機関名・ご氏名等を挙げて回答することはございません。

【ご意見・ご質問事前受付期間】  
平成29年6月7日(月)～9月15日(金)

【プログラム詳細・参加申込等】  
<http://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/event/forum2017.html>

【参考】  
国立情報学研究所 学術基盤オープンフォーラム2017「これからの学術情報システムは何を目指すのか：所蔵目録から情報資源の発見とアクセスへ」  
[http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2017/track/day2\\_6.html](http://www.nii.ac.jp/csi/openforum2017/track/day2_6.html)

【お問い合わせ先】  
大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議  
これからの学術情報システム構築検討委員会事務局  
メールアドレス：co\_korekara[at]nii.ac.jp

※ご記入いただきました個人情報につきましては、本イベントの運営にのみ使用いたします。

よろしければ「次へ」をクリックしてお進みください。

⊕ 新しい質問 ▼

または質問をコピーして貼り付ける

## これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システム構築検討委員会意見交換会：ご意見・ご質問事前受付

⊕ ページタイトル

**\* 1. 回答内容**

- 組織として回答する  
 個人として回答する

**\* 2. 所属機関名**

**\* 3. 所属部署名**

**\* 4. 氏名**

## これからの学術情報システム構築検討委員会

これからの学術情報システム構築検討委員会意見交換会：ご意見・ご質問事前受付

⊕ ページタイトル

**5. 「電子情報資源のデータの管理・共有について」に対するご意見・ご質問をご記入ください。**

**6. 「NACSIS-CATの軽量化・合理化について（実施方針）」に対するご意見・ご質問をご記入ください。**

**7. その他「これからの学術情報システム構築検討委員会」に対するご意見・ご質問をご記入ください。**